

標 題	宍道湖西岸地区大区画ほ場整備に係る営農支援活動報告その3 ～宍道湖西岸サポートセンターの機械共同利用開始～
-----	--

(ダイジェスト)

今年3月、宍道湖西岸地区の営農計画必達に向け、営農の司令塔として設立された「宍道湖西岸サポートセンター」が、機械の共同利用を開始しました。最初の仕事は、6月に導入したマニュアルスプレッダーによる堆肥散布となりました。7月31日、会員である12営農組織から、機械操作を行うオペレーター約50名が参加し、出雲市平田地区のほ場で、共同所有の機械であるマニュアルスプレッダーの操作講習を受けました。

宍道湖西岸地区では、平成30年度から令和11年度を工期とする「国営緊急農地再編整備事業（宍道湖西岸地区）」後の高収益作物の計画的な生産、新たな担い手の育成・確保、組織体制整備等を推進・実践するための組織として、「宍道湖西岸サポートセンター」（以下「西岸SC」という）を今年3月に設立しています。

西岸SCの役割は、営農計画の目標達成に向けた高収益作物の面積拡大・品質の高位平準化や、会員である担い手の生産コストの低減等があり、その一環として昨年度から共同利用機械の導入に向けて準備を取り組んできました。

第一弾として、6月にマニュアルスプレッダーが導入され、出雲普及部では補助事業（集落営農体制強化スピードアップ事業他）の申請支援や畜産農家との調整、堆肥散布の仕組みづくり等の支援を行ってきました。

7月31日、西岸SCの会員である12営農組織から、機械操作を行うオペレーター約50名が出席し、機械の操作講習が行われました。講習ではメーカーから機械や点検方法等の説明、共同利用にあたっての留意事項を聞いた後、散布作業を見学し、数名のオペレーターは実際に機械操作も行いました。

8月中には、主に秋作ブロッコリーの作付けに向け、約120tの堆肥がSC会員のほ場に散布され、秋には2回目の堆肥散布に向けた注文の集約・調整が行われる計画です。

現在、共同利用機械の第二弾として、小豆等の収穫を行う汎用コンバインの導入手続きが進められており、出雲普及部では引き続き、関係機関と連携しながら継続して西岸SCの運営支援を行っていきます。



堆肥積み込作業



堆肥散布作業